

この間、テレビで「ジェスチユアー」という番組を見た。交通整理の巡查の手ぶり、株屋の売買の指の動き、野球の監督のサイン、等々がまず紹介されて、人生におけるジェスチユアーの意義が考えられた訳だが、やがて、言葉の通じない外国旅行者の苦渋をはらんだジェスチユアーが出てきた。

交通巡查たちのジェスチユアーは、言語とおなじように、そういう記号が存在しているという感じがするが、外国旅行者の場合は、どこにも記号が存在してないのである。全く意志伝達の作業を一所懸命にやっている訳である。それはまさに、主体的な意志伝達の過程である。過程そのものである。言語が主体的な活動で、意志伝達の過程であるという説はこのジェスチユアーによってはっきり実感をもって受取れると思つた。

ここで、この言語にわかるジェスチユアーが、芸術、文学とどうかかわるかという連想ないしは、模索は、お茶を飲みながらの楽しいものになってきた。これは、もっとも、私が言語学の面に素人であるから楽しんでいられるのだと思ふのであるが。

ジェスチユアーは、手をふり首

ジェスチユアーから文学へ

和 田 繁 二 郎

をふり反復する。相手にわからな
いとなると何度も繰返す。そこに
一つのリズムが生まれてくる。舞
踊の発生が思われる。もちろん、
舞踊はこういう伝達よりも、もっ
と直接的な叫びに等しい動作から
も生まれるに違いないが、原始的
な踊りには狩猟の姿や辱耕の作業
なども織り込まれているようであ

る。そこに宗教的な呪術的なもの
が加わることも当然考えられる。

また、ジェスチユアーが物真似
として演劇の原始的な発生に結び
ついていることもよくわかる。パ
ントマイムがその発展した姿だと
思うが、はじめの演劇はパントマ
イムであったように思う。

ところで、これらの舞踊や劇に
なると、もう伝達という過
程ではなくなってしまう。
過程ではなく。その動作そ
のものが目的となる。そう
して、相手を意識しない自
己表現の道を歩みはじめ
る。そうなれば、芸術への門がそこ
に開けてくるのではないかと。

言語も、文学においては、やは
り伝達の意識を離れて、自己自身
の表現の媒材となる。そこで、言
語は作者の形象のために力を発揮
し、日常の意味を超えて象徴的機
能をもつようになる。

ざっと、こんなことを考えた。